

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第 4 号

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	1 4 0
		決裁期日	平成 2 2 年 7 月 2 0 日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第 2 回）		
日 時	平成 2 2 年 7 月 1 4 日(水) 午後 7 時 0 0 分～午後 9 時 1 5 分		
場 所	上富良野町役場 3 階第 2 会議室		
出席者	委員 1 0 人 事務局 2 人 合計 1 2 名		

内 容

**[ 進行：吉岡主幹 ]**

吉岡主幹から、欠席者（ 4 人）について報告。

**会長あいさつ**

三島会長： お忙しい中、会議への出席にお礼申し上げます。協働のまちづくり基本指針の素案を削らなければならない。そして町民全戸配布の概要版を作ることなのでご協力をよろしくお願ひしたい。

**議題**

**1 協働のまちづくり基本指針の策定について**

(1) 大分市市民協働基本指針について

吉岡主幹から大分市市民協働基本指針について説明。

(2) かなざわ協働を進めるルールブックについて

吉岡主幹からかなざわ協働を進めるルールブックについて説明。

松下副会長： 金沢市と大分市の指針をいただき、目を通したが、うちの町の行き着くところのイメージが湧かない。この会議の行き着くところはどこか決め、それにそったタイムスケジュールを作るといいと思う。一直線に行くのは大変で、ある程度まとまったものをパブリックコメントなどで住民に意見していただきながら進めるべきと思う。

吉岡主幹： 素案の時はしなかったが、基本指針では行なうべきと思っている。

松下副会長： 行き着くところのイメージがないままで意見も難しい。ある程度スパンを決め、その間にどういう作業をするのか決めて、基本指針を作るといいと思う。目標を作ってそれにまっしぐらというのは難しいと思う。前回は概要版を作るといった話だったが、大分市のようにするのか、もっと簡略化したパンフレットの的なものにするのかというようなことも過程の中で決まていくと思う。

吉岡主幹： 自治基本条例は解説があっても町民には難しい。

松下副会長： 確かにそういった意見が多かったと思う。行政に携わった人間を見ると違和感

がなかったが、子どもは見向きもしないと思う。

吉岡主幹： 広報のように一定期間経つと捨ててしまうということが多かったと思う。なおかつ、全て読んだ人はわずかだと思う。

島瀬委員： 大分市や金沢市は基本指針ができてから何年か経っているが、これを配ったことによる結果を知りたい。

吉岡主幹： 横浜市などが先進で、そこにも評価するために推進委員会のようなものがある。しかし、担当は頑張るが、その他の職員が理解していないことや、実践しないということがある。

松下副会長： 初めから基本指針作ることは大変だと思う。将来の上富良野のまちづくりをどうしたいかを議論して行って、それがまとまって基本指針ができたという形式にしなければならないと思う。

島瀬委員： 前回の委員さんが素案を作ってくれているので、それを基準に作らなければいけない。

久我委員： 基本指針の素案を昨年策定したので、ある程度それに沿っていかなければならないと思う。大分市と金沢市の基本指針を読んだが、大分市のほうは具体的で、わかりやすく書かれているし、言葉がダブっていないのでそれはいいと思う。上富良野町の素案を見ると同じことを繰り返しているところがかかなりあると思った。金沢市のほうは漫画のように書かれていて、誰が見てもわかりやすい。

持安委員： 久我委員の言うように素案に基づいて物事を進めて行ってほしい。それには共通のイメージが必要だと思う。素案にはイメージとなるものが出ていないので、それをこの委員会で成り立たせるため、共通のイメージ作ることを話し合わなければいけないと思う。

吉岡主幹： この素案はいろいろな自治体の基本指針をまとめてあるので、内容が重なってしまうところが出てしまった。また、1つの文章にいくつものことが説明されている部分もあるので読みにくいところもある。そういったところをわかりやすくしていきたい。

持安委員： もう一度これから何を決めるかを決めなければならないと思う。素案というのは元の案なので、どんなに多くてもいい。協働のまちづくりというのはなんのために必要で、どういうことをイメージするのかだと思う。そのことを町民の方にわかってもらって、その上で自分にはなにができるだろうということを話し合い、その中で協働のことについて迷った時に立ち返るものが素案だと思う。素案の内容を整理してしまうのは、この会の仕事ではないと思う。

吉岡主幹： 作業的には素案を基本指針にすることだと思う。準備委員会のときは勉強会を13回行い、素案は6回で策定した。

持安委員： 1年で素案を作り、それから2年かけて別の委員で基本指針を作るといって去年立ち上がったので、これからの2年間でとても大切だと思う。

吉岡主幹： 前課長の計画でも基本指針を作るのは9月いっぱいまでで、併せて概要版を作りたいということだった。あと6回でそこまでやるので時間はない。

島瀬委員： 今まで作り上げてきたのだから、その人たちで完成させるのが理想だと思う。

吉岡主幹： 最初は準備委員会ではなく、推進委員会でもいいのではないかという意見もあったが、最終的には準備委員会から始めることになった。

持安委員： 今後のスケジュールを教えてください。

吉岡主幹から今後の予定を説明。

松下副会長： 9月までに基本指針を作り、その後に協働のまちづくりをどうするかという話

をするなら、順番が逆だと思う。まちづくりのイメージができてから概要版を作るほうがいいと思う。概要版そのものはもっと後でいいと思う。

持安委員： 私もそう思う。概要版そのものは、町民の方にわかっていただくためのものであり、そのために委員会でイメージにしたものを具体化するために何をしたらいいのかをこの次から話し合っていくのだと思う。なおかつ、説明の中で検証という言葉を使っていたが、概要版に落とし込んでいくほうがイメージしやすいと思う。

松下委員： 概要版は小学校の副読本にできるようなものができればいいと思っている。完成は9月までではなく、もっと先でもいいと思う。

吉岡主幹： 来年区切りのいいところで春に配布でもいいと思う。正味5回程度で完成させることは難しいと思っている。

持安委員： 大切なのはどういった事業があって、そこで協働でできることを見出し、その仕組みを作っていくことだと思う。そしてそれを概要版に落とし込んでいくといいと思う。

島瀬委員： 最初からわからないものを始めないほうがいいと思う。やりやすい部分からはじめていけばいいと思う。

吉岡主幹： 素案にも上富良野町の事例を載せている。しかしこの事例は協働を意識する前から始まっていた。

島瀬委員： それならばいままでやっていたことが協働だということとわかりやすいと思う。

松下副会長： 前回に久我委員が言っていたようにいろいろな事例があると思う。協働でできるかできないかを選別をする前にどんな事業をしているかを見るといいと思う。

持安委員： 素案にある事例は各団体でやっていることと、やっていないことがあるので、やってないところがこれを見ればいいと思う。

吉岡主幹： 基本指針の始まりにいいと思う事例を持ってきて、そこから説明していくのもいいかもしれない。

久我委員： もし基本指針の完成が3月でいいなら、素案の読み合わせを行いたい。素案を策定した時にどんな話をしたかも説明できる。また、1人で読むよりも内容がわかりやすくなると思う。

平倉委員： 皆さんが話しているのでも少しずつイメージは湧いてきたが、素案を読んでも全然わからない。

吉岡主幹： 大分市の基本指針はわかりやすいが、上富良野町の素案のほうは入ってこないことは間違いない。大分市のものは練って練って作ったものだと思うので熟度が違う。上富良野町の素案のほうは、述べている順番が違うだけでわかりにくくなっているのかもしれない。順番を変え、わかりやすい文章に書き直していく作業は必要だと思う。

島瀬委員： 読み合わせをしなければ話が先に進まない。読み合わせの中で以前から委員だったかたに質問もできると思う。

吉岡主幹： 今日の予定は他の市の基本指針を見ていただいて、イメージを作っていたつもりだった。素案のほうは次回からはじめようと思っていた。

三島会長： 今年は講演会は行わないのか。

吉岡主幹： 10月に昨年度の2月にもきていただいた早瀬先生を呼び、講演をしていただく予定。他の市の基本指針は目を通していただくことにする。実際にイメージができたという感じではないので、次回から素案の読み合わせを行いたい。もし、基本指針を策定し、概要版を作っている際に基本指針を手直しすることはありだと思う。

10分間の休憩。

その後、上富良野町協働のまちづくり基本指針（素案）の読み合わせを開始。

<まえがきに関する意見要旨>

吉岡主幹： まえがきはすべてが完成してから作るといいと思う。

境委員： 文字から行くと素晴らしいことが書いてある。

<1. 協働とはに関する意見要旨>

島瀬委員： ちゃんと読むとしっかり入ってくる。

吉岡主幹： このあとに同じような部分も出てくる。くくり方が違うので何回も出てきてしまう。

島瀬委員： この素案は事務局で作ったのか。

吉岡主幹： 原案は前課長が作り、委員さんの意見で直していった。

持安委員： 素案には、町のお金が無くなったから町民にやってくださいというような後ろ向きな部分がある。準備委員会の時にももっと前向きにした方がいいという意見もあったが、これは素案なので残してもいいという意見だった。そういった点を踏まえながら、基本指針のほうには前向きな方向にしたほうがいいと考える。

吉岡主幹： 前向きという考え方と、全てさらけ出してしまうという考え方もあると思う。しかし、財政的にも厳しいということは行政に感心のある人ならばわかると思う。

持安委員： 財源というのはたくさんあっても少なくとも限りがある。それを有効に使うためにはどうしたらいいか、町民の皆さんと考えるという話だと思う。今度はそれが出てこなければならぬし、わかりやすいようにまとめていかなければならないと思う。

<2. 協働のまちづくりが求められる背景と必要性に関する意見要旨>

久我委員： 重なっているところが多くなってきていると思う。

吉岡主幹： 事務局から言うのもおかしいかもしれないが「(2)求められる協働のまちづくり」は地方分権のことを言っているので、「地方分権の進展」に上2段を加え、それ以外は削除するといいと思う。

承認される。

吉岡主幹： 「町民意識の高まり」の部分も表現を変えなければ、本当に意識が高まっているのかという疑問がでてくる。

島瀬委員： 今気がついて直せるならば、進んでしまってからあとで戻っても忘れてしまうので、直してしまったほうがいいと思う。

吉岡主幹： 「(1)協働が求められる背景」の後半にあるように、阪神・淡路大震災が協働が大事だといわれるきっかけとなった。

久我委員： 「(1)協働が求められる背景」は前半を削り、削った部分は「地域コミュニティの希薄化」に入れればいいのか。

持安委員： 素案は独立してみるととてもいいものなので、整理の仕方は難しいと思う。例えば文書を削除して、その後もう一度考えなおした上で追加するということもありだと思ふ。

「(1)協働が求められる背景」は前半を削るといったが、本当にそれでいいのかと思う。「(1)協働が求められる背景」で言わんとしていることを言わなければならないと思う。

三島会長： この委員会は町民に渡すことが仕事になる。字句がおかしければ直す。

松下副会長： 「(1)協働が求められる背景」の～があるが、と、の方向性が違うと思う。この～の前段は「地域コミュニティの希薄化」に関連した話だと思うが、削るのはいいのかと思う。また、「町民ニーズの多様化」が実際に協働が求められる背景になっているのか疑問に思っている。求められている背景というものを議論するな

らこれは入らなくてもいいと思う。

吉岡主幹： 「 町民意識の高まり」はいらわないと思う。町民の意識は高めるものであって、高まっていく。

三島会長： 概要版を作るため、素案には細かいことをたくさん入れてある。

吉岡主幹： しかし重複しているものはいらわないと思う。

境委員： なんでも削ってしまうと、準備委員会は何をしていたかわからなくなる。

持安委員： 言わんとしていることを凝縮しなければならない。

吉岡主幹： 協働の背景の前段は、「 地域コミュニティの希薄化」と同じ意味だと思うので分ける必要はない。

持安委員： 整理の仕方だが、この項目で何を言いたいのか明らかにし、削るところは削って新たな部分を作るのか、バツンと削ってしまうのかどちらか決めなければ進まないと思う。

吉岡主幹： 阪神・淡路大震災はきっかけなので残しておいて、これらが背景ということになると思う。しかし、「 地域コミュニティの希薄化」が協働の求められる背景ではないと思う。

島瀬委員： 原因としてはそうかもしれないが、背景とは違うと思う。

三島会長： 阪神・淡路大震災は自衛隊や警察などの公共の人間より、地域や住民会の人間が助けたほうが多かった。

松下副会長： そういったことがあるのなら、基本指針の中に阪神・淡路大震災の話を入れることも一つの方法だと思う。準備委員会もあるので、意見が出たものを基本指針の中にどう組み込んでいくかも議論していかなければならない。

三島会長： 足りないところを入れていくならわかるが、どんどん削っていくのはどうかと思う。

吉岡主幹： しかし、重複している部分は削らなければならない。

松下副会長： 重複した部分を削った上で、削った内容をどこの部分に移していくかということとは我々の探りでいいと思う。もちろん素案と同じ順番でなければならぬわけではないと思う。

吉岡主幹： 順番を変えた方がしっかり入ってくる場合もあるので、当然変えるべきだと思う。

松下副会長： 基本指針を言い換えて町民にわかりやすい概要版を組み立てていくというのが我々の仕事だと思う。

三島会長： 素案にけちをつけても仕方ない。

松下副会長： 素案にけちをつけるという気持ちはないが、委員会として存在している以上、意見はこの委員会としての意見として出していかなければならない。

吉岡主幹： 順番を変えることは準備委員会を無視して基本指針を作ることにはならないと思う。

松下副会長： 先ほども言ったように、協働が求められる背景に と は馴染まないと思うので、別の段で表現できるのなら、そういったところもやったほうがいいと思う。

吉岡主幹： これは手を加えたほうがもっと良くなると思う。また、同じようなものが2ヶ所でできたりというところもできた。

三島委員： それをこの次から直していきたいと思う。また素案を読み直していただき、自分の得意なところを見てきていただいてこの次の会議にしたい。

## 2 その他

次回会議は、7月27日(火)を予定する。後日、開催案内を出す。

**閉 会**

[会議終了：21時15分]

上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

2

	所属団体・機関の名称	氏 名	備 考	7月14日
1	住民会長連合会	上 村 勉		
2	住民会長連合会	松 下 力		
3	社会福祉協議会	持 安 弘 行		
4	NPO法人たんぼぼの会	三 島 功 士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬 川 英 樹		
6	商工会	境 一 義		
7	生活安全推進協議会	島 瀬 良 一		
8	女性連絡協議会	中 澤 正 子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥 田 哲 也		
10	公募	大 内 和 行		
11	公募	徳 武 良 弘		
12	公募	久 我 みち子		
13	公募	平 倉 範 子		